

建築主：大木戸台自治会  
 設計：ジーテック一級建築士事務所  
 施工：株式会社伴工務店  
 所在地：千葉市緑区大木戸町178-68

～地域住民との対話から生まれた集会所～

## 大木戸第一公園集会所



住宅街のまちなみと調和する都市公園内の集会所

(撮影:東涌宏和)

本作品は、老朽化した旧自治会館に代わる施設として、地域住民の交流と活動を支える場として計画された木造平屋建築であり、高齢化が進む地域の日常利用や災害時の一次避難所としての役割も併せ持つ重要な集会所である。

設計には大学の研究室が参画し、学生たちは設計プロセスを間近に体感する貴重な機会を得た。地域住民との対話を重ねながら現実的かつ持続可能な計画を進め、住民の意見や要望を丁寧に反映させることで、建物が単なる公共施設ではなく、地域住民の思いが込められた「自分たちの場」として受け入れられる存在となっている。こうした協働の積み重ねが、完成後の施設が地域に親しまれ、長く利用される基盤となるのだろう。

建物のデザインは、二つの切妻屋根を平面的にずらして配置することで街並みに調和しつつ象徴性を持たせており、屋根の交差部分に設けられた高窓付きの吹き抜け空間が自然光を室内に取り込むことで、明るく開放的な雰囲気を演出している。近

年は特に建設資材の高騰が著しく、限られた予算の中での設計は苦慮する点も多かったようだが、在来軸組工法を基盤とし、一般的な流通材を用いながらも8.1mの無柱空間を実現したことは合理的で好例といえよう。

建物のエントランスに設けられた広い屋根付きの外部空間は、地域イベントやマーケット、音楽会など多様な活動を受け入れる柔軟性を備えており、公園利用者の憩いの場としても機能している。多目的で柔軟に利用できるこの施設は、地域コミュニティを支える重要な拠点として長く親しまれるだろう。

(加藤 未佳)



水平材と斜材で組んだ片持ち梁により、小断面材で間口8100mmの屋根を支持する  
 (撮影:東涌宏和)



構造材をあらわした活動的な雰囲気の集会所